

日本



米国



ユーロ圏



カナダ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

債券・為替ウィークリーレポート (先進国・新興国)



ブラジル



南アフリカ



インドネシア



インド
















メキシコ



トルコ







中国

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/3 （1/27との比較） 今後の見通し （※4）	2/3 （1/27との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
日本 	A+	0.10% （+0.02）		+1.1% 2016年3Q	-	日銀は金融政策を据え置き、展望レポートで成長見通しを上方修正。国債買い入れ方針の不透明感などを背景とした長期金利上昇に対応し、週末日銀は指値オペを実施。金利抑制姿勢が示される中、国債利回りは小幅上昇。	景気ウォッチャー調査や機械受注の発表が予定される中、引き続き日銀による国債買い入れに関わる動きが注目。先週末の指値オペを受け、当面国債利回りは上昇しにくい状況。また、週末の日米首脳会談の内容も注目。
	A1	 金利横ばい		 景気安定	-		
米国 	AA+	2.47% （▲0.02）	112.61円 （▲2.16%）	+1.9% 2016年4Q	0.75%	FOMC（米連邦公開市場委員会）では金融政策が維持され、雇用統計などの経済指標では緩やかな改善基調が示された。新政権の米ドル高へのけん制発言を受け、米ドルは対円で下落。国債利回りは小幅低下。	日米首脳会談では、貿易や安全保障についての議論がなされる予定で、通商政策などの議論が注目される。引き続き新政権の政策動向から目が離せない状況で、経済指標では貿易収支や財政収支などの発表を予定。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ユーロ圏 （*） 	AAA	0.41% （▲0.05）	121.44円 （▲1.37%）	+1.8% 2016年4Q	0.00%	ユーロ圏のGDP（国内総生産）が堅調な結果となる中、ECB（欧州中央銀行）は経済報告で一時的な物価上昇は重視しない姿勢を示す。フランスの政治などに不透明感がある中、国債利回りは低下。ユーロは対円で下落。	重視される経済指標の発表予定がない中、引き続きフランスやオランダ、イタリアなど各国政治の先行きの不透明感が材料視される環境。また、米国の政策動向からも影響を受ける状況が持続するとみられる。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示（*ユーロ圏についてはドイツの同格付を表示）。※2 10年国債利回りを表示（*ユーロ圏はドイツ国債利回り）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。※政策金利については、米国：フェデラルファンド金利、ユーロ：主要リファイナンス金利を表示、日本は金融政策の目標が無担保コール翌日物からマネタリーベースに変更されたため非表示。



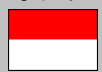

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/3 (1/27との比較)	2/3 (1/27との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
カナダ 	AAA	1.77% (▲0.02)	86.45円 (▲1.21%)	+1.3% 2016年3Q	0.50%	GDP（国内総生産）は市場予想を上回る内容。米新政権の政策動向も注目される中、概ね米国債利回りの動きに連れて、国債利回りは小幅低下。原油価格が上昇する中、カナダドルは対円で下落。	国際商品貿易や住宅着工件数、雇用統計などの発表が予定され、引き続き景気回復度合いを探る環境。また、NAFTA（北米自由貿易協定）の再交渉や米国の政治経済動向に加え、原油価格も注目される。
	Aaa	金利上昇	金利上昇	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
オーストラリア 	AAA	2.80% (+0.02)	86.50円 (▲0.47%)	+1.8% 2016年3Q	1.50%	企業景況感は前月からの改善を示し、貿易収支は前月比で増加となるなど、市場予想を上回る内容。米豪首脳による電話会談でのやり取りも伝わる中、国債利回りは小幅上昇、オーストラリアドルは対円で下落。	中銀は政策金利を据え置くと予想され、その後公表される金融政策報告書にも注目。小売売上高などの経済指標の発表も予定。米国や中国の政治経済動向などを受けた海外市場が注目される。
	Aaa	→ 金利横ばい	→ 金利横ばい	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	3.39% (▲0.02)	82.34円 (▲1.46%)	+3.5% 2016年3Q	1.75%	雇用統計では、失業率が小幅上昇し賃金伸び率が市場予想を下回るなど、労働市場の勢いにやや陰りが見られる内容。全般的な円高の影響からニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは小幅低下。	首相は9月23日に国政選挙を実施すると発表。現時点で与党が世論調査をリードしており、大きな政治的波乱は見込まれず。景気好調ながら賃金の伸びが加速する兆しが見られず、9日に中銀は政策金利を据え置き見込み。
	Aaa	→ 金利横ばい	→ 金利横ばい	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.70% (▲0.05)	13.70円 (▲0.59%)	-0.9% 2016年3Q	0.50%	鉱工業信頼感指数が改善し、製造業PMIも市場予想を上回った一方、小売売上高が前月比で減少。主要国市場全般の影響を受け、ノルウェークローネは対円で下落。国債利回りは低下。	GDP（国内総生産）は前期から改善する見込み。コアインフレ率も市場予想通りに高止まりすれば、追加金融緩和は実施されず、当面金融政策が据え置かれるとの見方が一段と強まる公算。
	Aaa	→ 金利横ばい	→ 金利横ばい	→ 景気安定	→ 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1か月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国 (地域)	格付 (※1)	債券 (※2)	為替 (対円)	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/3 (1/27との比較)	2/3 (1/27との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
ブラジル 	BB	10.43% (▲0.17)	36.05円 (▲1.63%)	-2.9% 2016年3Q	13.00%	弱めの鉱工業生産や失業率などを受けて追加利下げ観測が高まる中、国債利回りは低下。市場全体で米ドル高基調が一服する中、財政健全化への期待もあり、レアルは対米ドルで上昇。一方対円では下落。	足元でインフレ低下基調が加速していることなどから利下げ局面の長期化が見込まれ、国債利回りは低下しやすい地合い。レアルは政府の財政再建に向けた取り組みや、中銀の為替政策などを受けて底堅い推移を予想。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	↗ 景気回復	↘ 利下げ局面		
南アフリカ 	BBB	8.13% (▲0.04)	8.47円 (▲1.10%)	+0.7% 2016年3Q	7.00%	貿易収支は3カ月ぶりの黒字に転換。製造業PMIも前月比で大幅に上昇。良好な経済指標を受けて、国債利回りは低下。ランドは対米ドルで上昇。一方市場全般の円高から、対円では下落。	大統領による施政方針演説を予定。演説後に内閣改造を行い、財務相を更迭するとの憶測もあることから人事動向に注目。財務相の交代があれば、同国の資産価格に下押し圧力が強まると予想。
	Baa2	→ 金利横ばい	↘	↘ 景気鈍化	↗ 利上げ局面		
インドネシア 	BB+	7.29% (+0.04)	0.84円 (▲1.97%)	+5.0% 2016年3Q	4.75%	製造業PMIは前月から改善。インフレの前年比伸び率も市場予想を上回り、前月から加速したことを受け、国債利回りは上昇。市場の円高傾向を受けて、ルピアは対円で下落。	外貨準備高やGDP (国内総生産) などの発表を予定。インフレ上昇圧力により、利下げへの期待が後退するも、相対的な利回り水準の高さが選好されやすいことから、同国の債券・為替ともに底堅い推移を予想。
	Baa3	→ 金利横ばい	→	↗ 景気安定	→ 据え置き局面		
インド 	BBB-	6.46% (▲0.03)	1.67円 (▲1.01%)	+7.3% 2016年3Q	6.25%	政府は2017年度予算案を発表。インフラなど歳出は拡大ながら、財政規律は維持される方針。同予算案が好感され、国債利回りは小幅低下。インドルピーは対米ドルで上昇。市場全般の円高から、対円では下落。	今週は金融政策決定会合を予定。足元でインフレ率は低位で安定しており、市場では政策金利の引き下げを予想。中銀が予想外の判断をしなければ債券・為替ともに堅調な推移を予想。
	Baa3	→ 金利横ばい	→	↗ 景気回復	↘ 利下げ局面		

(出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成)

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 国債利回りを表示 (ブラジル：4年、南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年)。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高(円安)を上向き、現地通貨安(円高)を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。※政策金利については、ブラジル：Selicレート、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

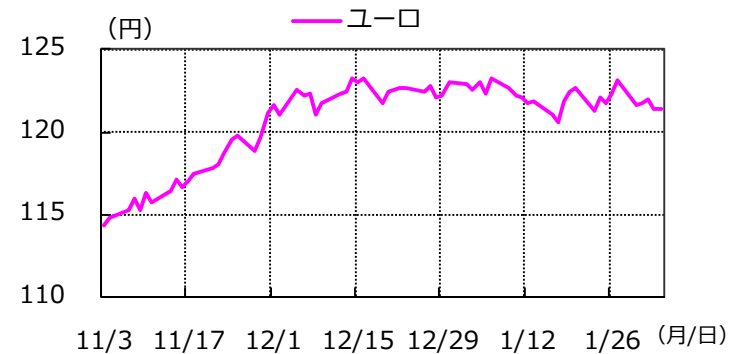
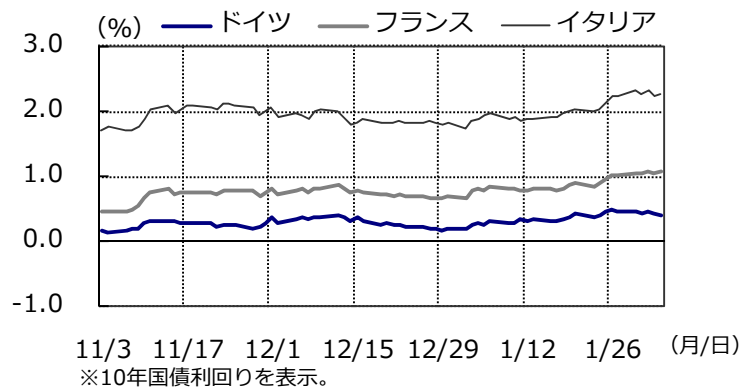
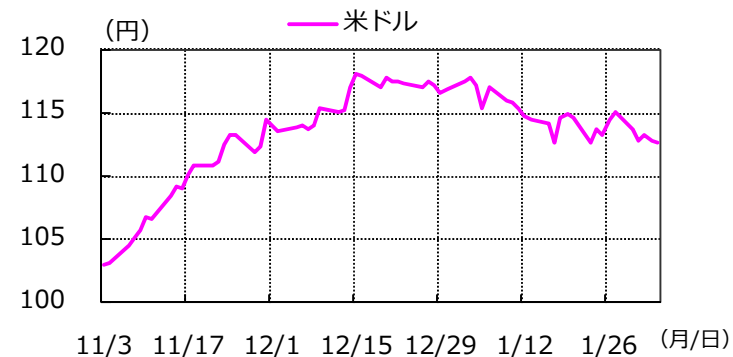
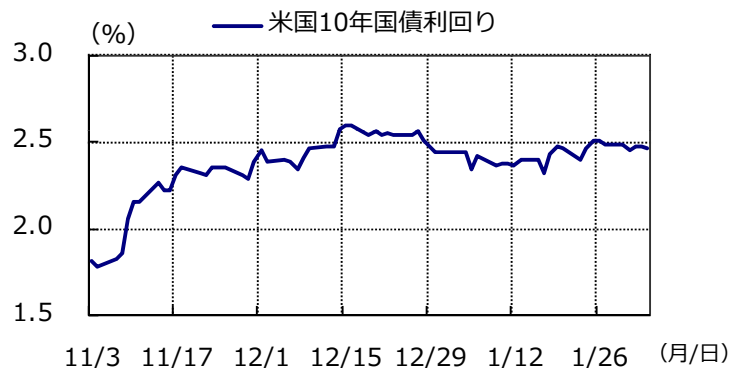
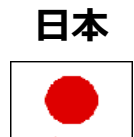
国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/3 (1/27との比較) 今後の見通し (※4)	2/3 (1/27との比較) 今後の見通し (※5)	前年比 (※3) 景気の方向性 (※6)	先週末 方向性 (※7)		
メキシコ 	A	7.17% (▲0.14)	5.53円 (+0.32%)	+2.2% 2016年4Q	5.75%	GDP（国内総生産）は減速した一方、製造業PMIは小幅上昇。NAFTA（北米自由貿易協定）の再交渉時期の早期化が示されたことが好感され、国債利回りは低下。ペソは対米ドル、対円ともに上昇。	金融政策決定会合を予定。インフレ率が加速する中、市場では政策金利の引き上げを予想。また市場は対米関係のヘッドラインに左右される展開を予想。経済指標は、インフレ統計や鉱工業生産などの発表予定。
	A3	 金利横ばい		 景気回復	 利上げ局面		
トルコ 	BB+	10.98% (▲0.33)	30.37円 (+2.06%)	-1.8% 2016年3Q	8.00%	インフレ率が市場予想を上回ったものの、必要があれば一段の金融引き締めを行うと中銀が示唆したことを受けて、国債利回りは低下。リラは対米ドル、対円ともに上昇。	鉱工業生産などの発表を予定。先週は債券・為替市場ともに買い戻しの動きが見られたものの、同国の政治リスクや脆弱な経済構造に変化はなく、引き続き頭の重い展開を予想。
	Ba1	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		
中国 	AA-	4.00% (▲0.02)	16.37円 (▲1.95%)	+6.8% 2016年4Q	4.35%	製造業PMIは50を超える水準を維持。中銀がリバースレポ金利及び常設貸出ファシリティー金利を引き上げたことを受けて、国債利回りは小幅低下。市場の円高傾向を受けて、香港市場の人民元は対円で下落。	貿易統計や外貨準備高などの発表を予定。資本流出への懸念が高まる中、外貨準備高の増減が注目。また国内景気が底堅く推移する中、追加金融引き締めへの警戒感が強まり、国債利回りは上昇しやすい地合いを予想。
	Aa3	 金利上昇		 景気鈍化	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。※2 国債利回りを表示（メキシコ：5年、トルコ：5年、中国（香港市場における中国国債の利回り）：10年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値（中国の為替は、香港市場における人民元の為替レート）を表示。※政策金利については、メキシコ：翌日物金利、トルコ：1週間物レポレート、中国：1年物貸出金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/11/3～2017/2/3

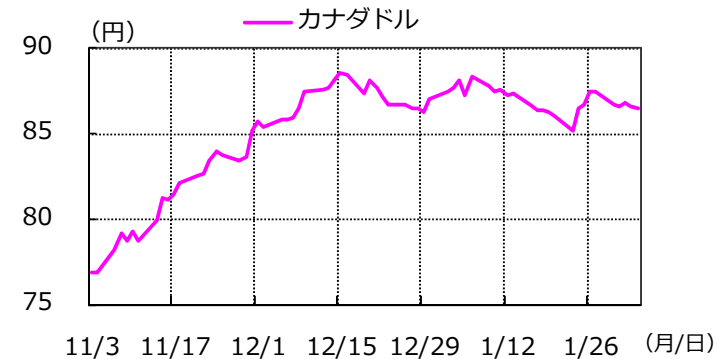
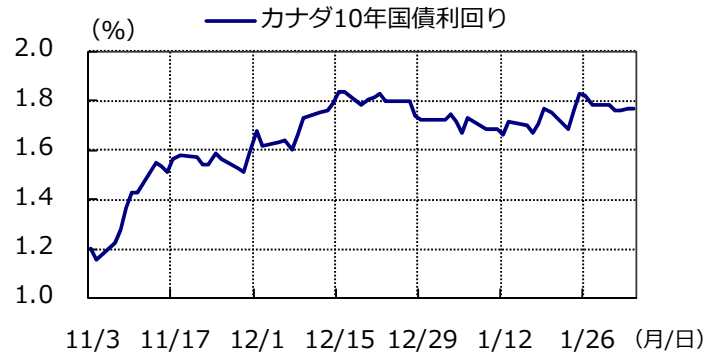


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

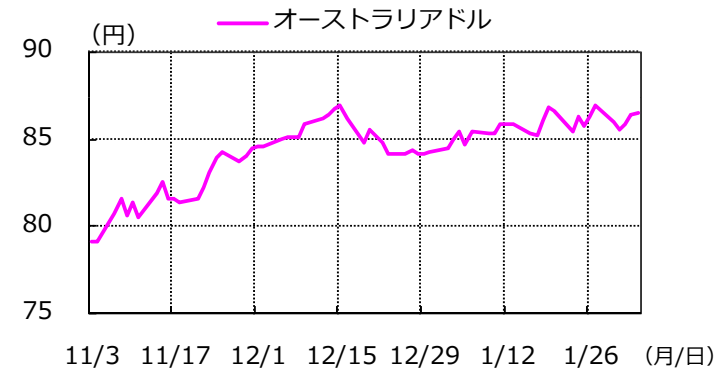
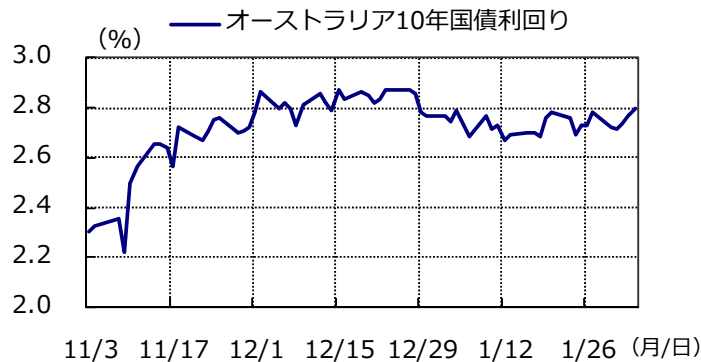
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/11/3～2017/2/3

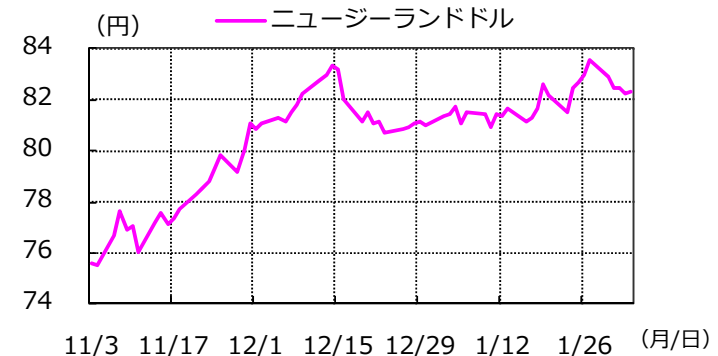
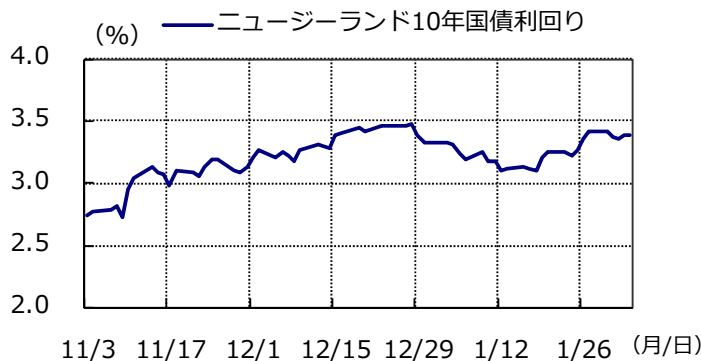
カナダ



オーストラリア



ニュージーランド

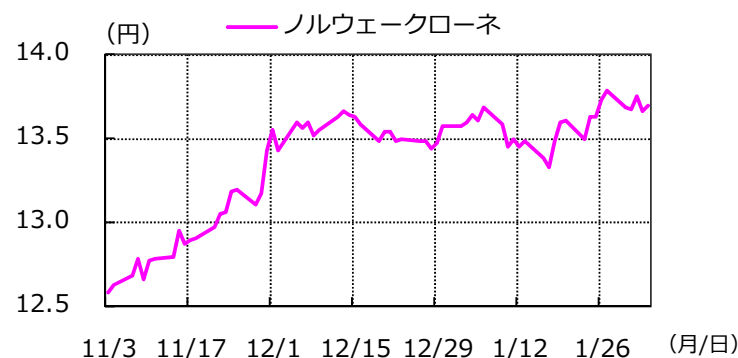


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

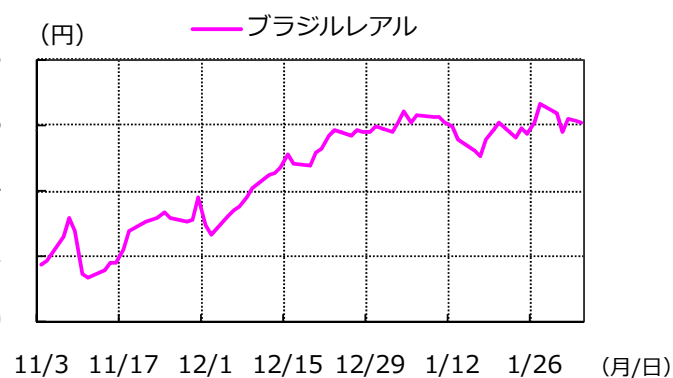
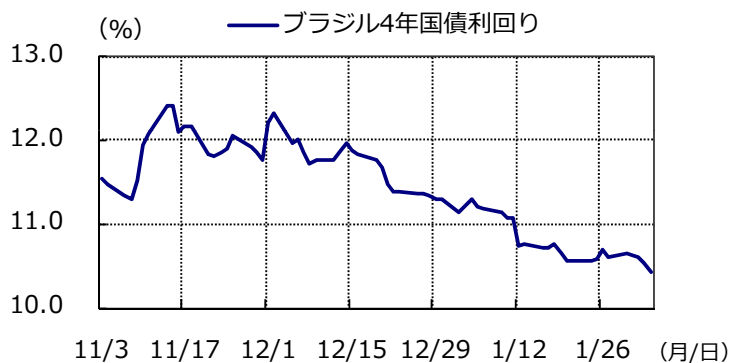
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/11/3～2017/2/3

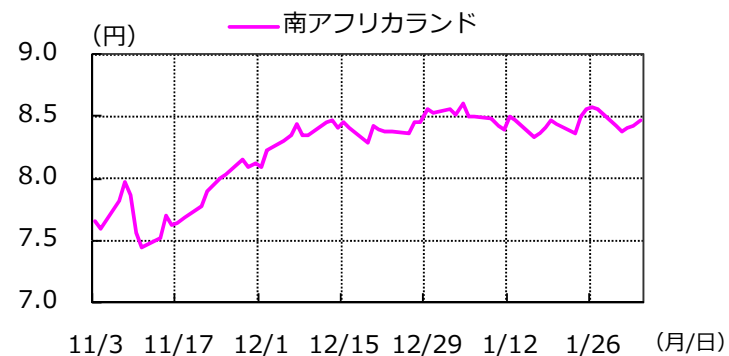
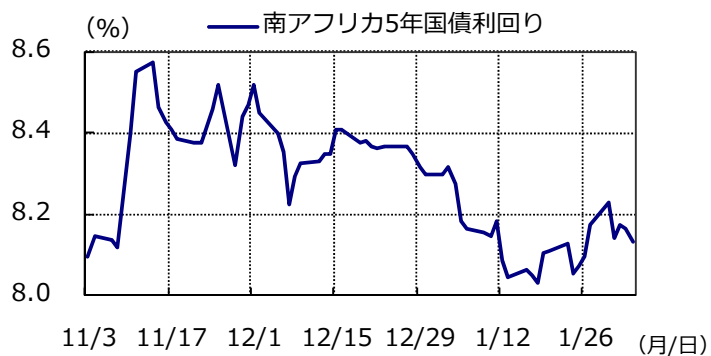
ノルウェー



ブラジル



南アフリカ

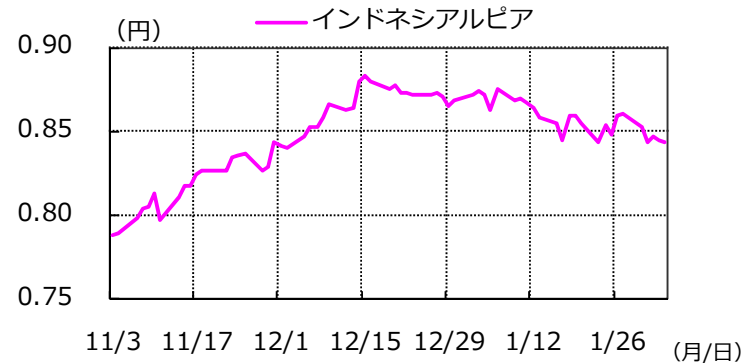
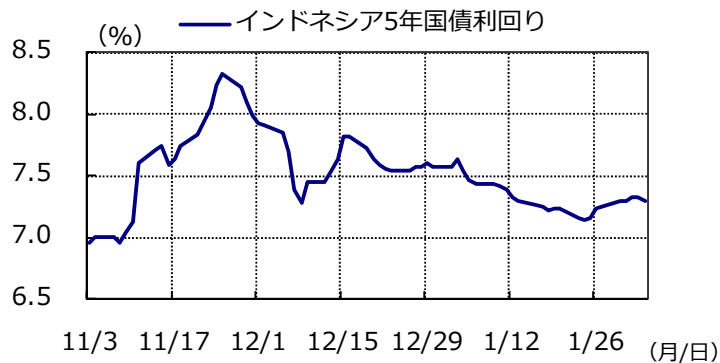


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

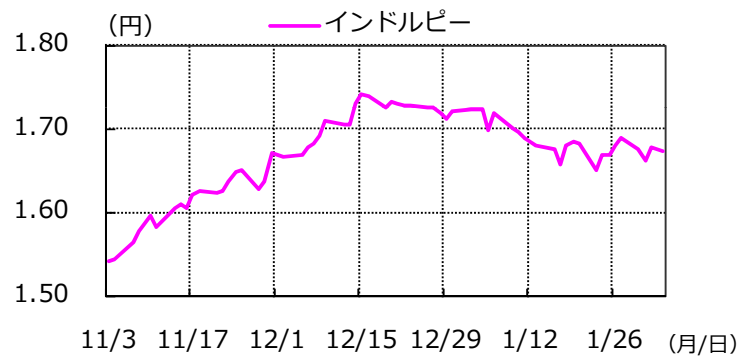
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/11/3～2017/2/3

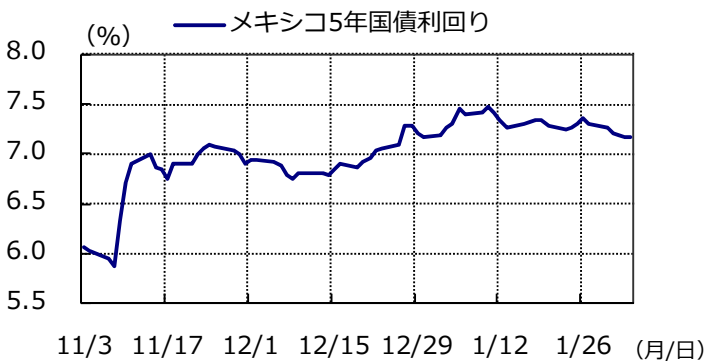
インドネシア



インド



メキシコ



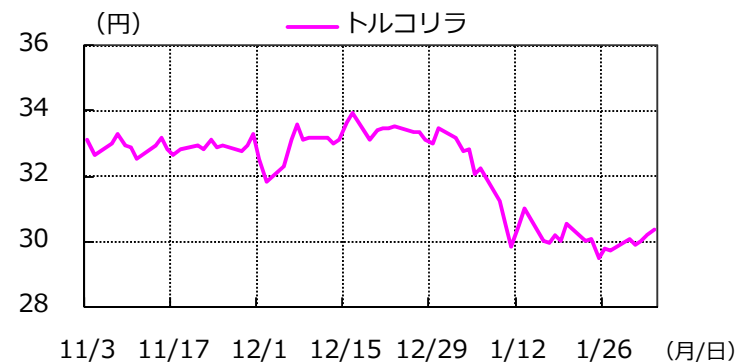
※インドネシアアルピアは100通貨単位あたりの値。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

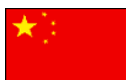
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/11/3～2017/2/3

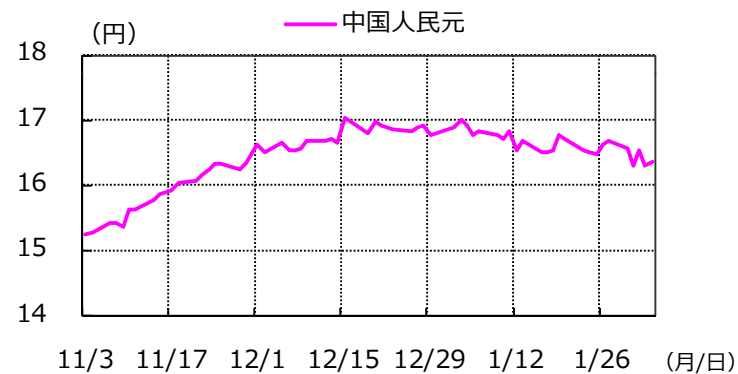
トルコ



中国



※香港市場における中国国債の利回りを表示。



※香港市場における人民元の為替レートを表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等を基にアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

【ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限4.104%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。